

SYLLABUS(前期)

授業科目	インテリアデザイン	年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして注文住宅の仕様全般業務やリフォーム全般業務に関する実務経験を有す。						
教育目標	インテリアコーディネーター試験の基礎知識「インテリア商品と販売」「インテリア計画と技術」を学び資格取得の資とする。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	インテリア販売（1）	インテリアコーディネーターの職能・流れ 販売活動の基本理念 マーケティングの諸活動					
2	インテリア販売（2）	コンサルティング、プレゼンテーション 積算と見積り、販売実務、消費者心理 情報技術					
3	インテリアの歴史（1）	日本のインテリアの歴史					
4	インテリアの歴史（2）	西洋のインテリアの歴史					
5	インテリア計画（1）	人間工学、寸法計画					
6	インテリア計画（2）	住空間の設計 バリアフリー計画					
7	色彩と造形	色彩計画 造形					
8	家具（1）	家具の種類 家具の構造					
9	家具（2）	家具の材料と金物 家具の塗装 学の生産と流通					
10	ウインドウトリートメント（1）	ファブリックスの基礎					
11	ウインドウトリートメント（2）	カーテンとウインドウトリートメント					
12	各種エレメント（1）	エクステリア・グリーン ホームリネンとテーブルウェア					
13	各種エレメント（2）	寝具 造作部品					
14	各種エレメント（3）	インテリア・オーナメント					
15	前期まとめ						
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	インテリアコーディネーター 合格テキスト 新試験対応版、インテリアコーディネーター1次試験過去問題徹底研究 上巻 下巻						

SYLLABUS(前期)

授業科目	ビジネスマナー I		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			
実務経験内容								
教育目標	社会人、企業人としての心得・礼儀作法、マナーについて学ぶ。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	キャリアと豊かな仕事生活	将来の自分・数年先の自分 仕事への取り組み方						
2	服装と身だしなみ	身だしなみの基本 ビジネスウェアの基本						
3	職場のコミュニケーション①	良好な人間関係と円滑なコミュニケーション チームワークの重要性						
4	就業中のマナー	入社から退社まで 執務中の態度や行動						
5	話の聞き方と指示の受け方	話を聞くためのポイント 指示・忠告の受け方						
6	指示、報告と連絡・相談	報告・相談・連絡の重要性						
7	話し方の基本	印象の良い話し方 上手な話と下手な話						
8	自己紹介と簡単なスピーチ	自己紹介のしかた スピーチのしかた						
9	ことばづかい	ビジネスの場にふさわしいことば 気をつけたいことば						
10	会議への参加と協力	会議への参加の心得						
11	電話対応 来客対応	電話の取次ぎ、かけ方、受け方 受付・接客時の言葉づかい						
12	名刺交換と面談の基本マナー	名刺交換の仕方 面談の基本マナー						
13	訪問のマナー	訪問の基本マナー 出張時のスケジュールづくり						
14	取引先とのつきあい	取引先を招待するときの心得 会食のマナー						
15	冠婚葬祭のマナー	慶事 弔事						
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト、就職活動 実践！ワークブック 改訂版							

SYLLABUS(前期)

授業科目	一般構造		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	各建築物の基礎工事から仕上げまでを理解させ建築物の設計能力を養う。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築構造（Ⅰ）		建築構造のあらまし （建築構造の発達、建築構造の計画、建築物の構造の分類）					
2	建築構造（Ⅱ）		建築と法規・基準 （建築材料と規格、建築基準法・各種基準・建築士法）					
3	木構造（Ⅰ）		構造形式、木材 （建築用木材、木材の成長、製材、木材の性質、木質材料）					
4	木構造（Ⅱ）		地業・基礎 （地業、基礎）					
5	木構造（Ⅲ）		木材の接合 （継手・仕口、接合金物、接着剤、接合の留意点）					
6	木構造（Ⅳ）		軸組 （土台・火打土台、柱、胴差、桁、筋かい、方づえ・添え柱）					
7	木構造（Ⅴ）		小屋組 （和小屋・洋小屋の特徴、和小屋・洋小屋の構造）					
8	木構造（Ⅵ）		床組、階段 （束を立てる床組、束のない床組、階段）					
9	木構造（Ⅶ）		仕上組立 （建築物の部位別性能、建築物の断熱化、建築物の遮音化）					
10	木構造（Ⅷ）		開口部 （開口部の構成、開口部詳細、建具と建具金物）					
11	木構造（Ⅸ）		外部仕上げ （屋根、軒天井、ひさし、とい、外壁）					
12	木構造（Ⅹ）		内部仕上げ （床、内壁、天井、床の間、柵・書院、押入、縁側）					
13	木構造（ⅩⅠ）		木造枠組壁構法					
14	まとめ		木構造のまとめ					
15	試験							
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	改訂版 初めての建築一般構造							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築CAD実習 I		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目		○	
実務経験内容	建築士として個人邸を中心とした設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	CAD製図法を学び、各種建築図面を反復練習して作図能力を高める。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	Windowsの基礎 JwCADの基礎（Ⅰ）		実習室での注意、パソコン取り扱いの注意、CAD資格について様々な方法で線分を引けるようにする画面操作の習得、スナップモードの習得、ファイルの保存					
2	JwCADの基礎（Ⅱ）		作図コマンド（矩形、円、円弧、2線）の習得 スナップモードとの組み合わせ					
3	JwCADの基礎（Ⅲ）		線の編集コマンド （部分消去、コーナー処理、複線、伸縮、分割）の習得					
4	JwCADの基礎（Ⅳ）		選択方法の使い分け（要素選択、範囲選択、除外） 要素の削除					
5	JwCADの基礎（Ⅴ）		図形の編集コマンド （複写、移動、反転、回転、拡大、縮小、パラメトリック）の習得					
6	JwCADの基礎（Ⅵ）		文字入力、寸法線の記入方法、要素測定の習得					
7	JwCADの基礎（Ⅶ）		属性、尺度、用紙についてCAD特有の考え方を習得					
8	JwCADの基礎（Ⅷ）		用紙枠の作成 （用紙、尺度、矩形、文字記入、線属性の設定、図形登録）					
9	JwCADの基礎（Ⅸ）		簡単な作図 （用紙設定→枠を置く→作図→寸法記入→保存→印刷）					
10	木造図面 （配置図）		木造2階建て住宅の配置図を作成 尺度とレイヤグループ、基準線と補助線の使い分け					
11	木造図面 （1階平面図（Ⅰ））		木造2階建て住宅の1階平面図を作成 基準線、補助線、柱配置、大壁と真壁の描き方					
12	木造図面 （1階平面図（Ⅱ））		木造2階建て住宅の1階平面図を作成 建具コマンドの使い方、サッシュ・ドア・木製建具の記入					
13	木造図面 （1階平面図（Ⅲ））		木造2階建て住宅の1階平面図を作成 設備・家具の記入、寸法記入、文字記入					
14	木造図面 （2階平面図）		1階平面図を利用して2階平面図を作成 ファイル保存の注意、既存図面の活用、レイヤ使い分け					
15	木造図面まとめ		やり残した課題を仕上げ、印刷をしてまとめ CAD作図の技術的な問題点を残さないよう復習					
1回配当時間	4時間		2コマ					
使用教科書	建築CAD検定試験公式ガイドブック、建築CAD検定試験問題集、ドリルで学ぶJW-cad第4版、実践ドリルで学ぶOffice活用術							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築基礎		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築に必要な数学を理解させ、構造設計の計算能力を高める。また、CADの基本的事項について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優(A:100点~80点)、良(B:79点~70点)、可(69点~60点)、不可(D:60点未満)とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	講座の概要 数学の基礎 (I)		正の数・負の数 (加減乗除の計算順序、括弧の使い方) 四則演算・分数 (計算問題と解答)					
2	数学の基礎 (II)		式とその計算 (文字式のたて方) 平方と平方根 (平方根を含んだ式のたて方)					
3	J I S 製図の基礎 (I)		製図用紙・記号・用語 (用紙の種類、尺度、線の種類、製図記号等)					
4	J I S 製図の基礎 (II)		投影図 (正投影図の練習)					
5	J I S 製図の基礎 (III)		投影図 (複雑な投影図の読み取り)					
6	数学の基礎 (III)		方程式 (簡単な因数分解、一次・二次線形方程式のたて方と解法)					
7	数学の基礎 (IV)		関数とグラフ (式の視覚化、方程式との関連、平行移動と式)					
8	数学の基礎 (V)		グラフと応力図 (応力図を描く)					
9	数学の基礎 (VI)		三角関数 (ラジアンとデグリー、SIN、COSと円運動)					
10	数学の基礎 (VII)		方程式の応用、三角関数の応用					
11	数学の基礎 (VIII-I)		図形の基礎 (基礎的な図形の性質、面積、体積)					
12	数学の基礎 (VIII-II)		図形の基礎 (相似、合同と比例、測量の原理)					
13	数学の基礎 (IX)		数量積算 (面積・体積・数量積算)					
14	数学の基礎 (X)		立体図形 (立体図形の構成、図形の演習)					
15	数学の基礎 (XI)		三次元の点と線					
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、図説やさしい建築数学							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築計画		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物の用途に応じた設計条件や法令との関係などを理解し、適切で合理的な設計のあり方について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題目	授業内容						
1	建築計画の概要	建築計画に関する予備的知識としての概論						
2	独立住宅の計画（Ⅰ）	独立住宅の配置計画・平面計画						
3	独立住宅の計画（Ⅱ）	独立住宅の断面計画・外構計画						
4	集合住宅の計画（Ⅰ）	集合住宅の分類・配置計画・住棟計画						
5	集合住宅の計画（Ⅱ）	集合住宅の住戸計画・外構計画						
6	住戸内の計画（Ⅰ）	住宅の居室に関する規定・リビング空間の計画・個室空間の計画						
7	住戸内の計画（Ⅱ）	サービス空間の計画・収納空間の計画・通路空間の計画・和室のデザイン						
8	ホテル・旅館の計画（Ⅰ）	ホテル・旅館の歴史・種類・運営 ホテル・旅館計画のプロセス、立地条件、規模計画						
9	ホテル・旅館の計画（Ⅱ）	ホテル・旅館の平面計画・構造計画・設備計画 ホテル・旅館の客室部門・パブリック部門・管理部門						
10	病院・診療所の計画（Ⅰ）	近代的病院の成立・医療サービスの体系・病院の構成 病院の規模計画・病棟の計画						
11	病院・診療所の計画（Ⅱ）	病院の診療部の計画・外来部の計画・供給部・管理部 診療所の位置付け・計画・老人保健施設の計画						
12	学校・幼稚園・保育所（Ⅰ）	学校区の計画・規模計画・配置計画・平面計画 学校の各部計画						
13	学校・幼稚園・保育所（Ⅱ）	学校の学習関連の諸室、生活関連の諸室、管理諸室、体育施設 幼稚園・保育所の基本計画・建築計画						
14	総合演習問題	総合能力の達成度の確認および補足のための演習問題						
15	試験							
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	やさしい建築計画							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築材料実験	年次	1年	前後期	通年	単位	3
授業の種類	実習	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士、建築施工管理技士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築材料の物理的特性を実地検証し、適材を適所に使用方法を習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	セメントの比重 測定	実験の目的、要領、ルシヤテリエ比重瓶の取扱い					
2	セメントの凝結・安定性試験	セメントの凝結時間測定、ビガー針装置の取扱い要領 漆喰、プラスター、石膏等の凝結試験					
3	セメントのフロー試験	セメントの強度測定のテストピース製作要領、日本標準砂、ポルトランドセメントについて					
4	セメントの強度測定	前回製作した試験片の脱型、片付、曲げ試験、圧縮試験					
5	セメントの強度測定 骨材、建材の比重、吸水率測定	前回到続きセメントの曲げ試験、圧縮試験、実験の目的、要領、乾燥重量測定 石材、レンガ、タイルの比重、吸水率測定の準備					
6	建材の比重、吸水率測定	測定装置、計測、レポート記入、石材、レンガ、陶磁器等建材の比重、吸水率測定					
7	セメントの強度測定	セメントの曲げ試験、圧縮試験、レポート記入					
8	骨材ふるい分け試験	コンクリート製造に必要な骨材の粒度、実験の目的、要領、コンクリート工事用語について					
9	コンクリート調合設計	コンクリートの設計強度、水セメント比、調合の定め方					
10	コンクリートの試し練り	要領、計量、スランプ試験、テストピース作成手順、型枠製作、鉄筋コンクリート 曲げ試験用梁鉄筋加工、片付					
11	コンクリート製造	コンクリート製造、各種テストピース製作					
12	コンクリート強度測定	テストピース脱型、養生、一週強度測定					
13	各種コンクリート 建築用粘土製品について	ALC、各種セメント、PCコンクリート、ハイブリッド材等 セメント、陶磁器タイル、瓦等建築材料の特性					
14	コンクリート圧縮強度測定 2ヶ月	測定、レポート整理					
15	試験						
1回配当時間	4時間	2コマ					
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、新版 建築実習1						

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築史		年次	1年	前後期	前期	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	日本と西洋の建築の変遷と相違点を認識し、各時代の遺構から建築様式、構造、構法を学び現代建築への発達過程を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	西洋建築史・古代（Ⅰ）		古代オリエント、古代エジプト建築					
2	西洋建築史・古代（Ⅱ）		ギリシア建築、ローマ建築					
3	西洋建築史・中世（Ⅰ）		古代末期・中世初期の建築					
4	西洋建築史・中世（Ⅱ）		ビザンツ建築					
5	西洋建築史・中世（Ⅲ）		ロマネスク建築					
6	西洋建築史・中世（Ⅳ）		ゴシック建築					
7	西洋建築史・近世（Ⅰ）		ルネサンス建築、バロック建築					
8	西洋建築史・近世（Ⅱ）		新古典主義建築、歴史主義建築					
9	日本建築史・古代（Ⅰ）		縄文・弥生・古墳時代の住居・集落					
10	日本建築史・古代（Ⅱ）		飛鳥・白鳳時代の寺院、奈良（天平）時代の寺院					
11	日本建築史・古代（Ⅲ）		平安時代の密教寺院、平安時代の浄土教寺院、古代の形式を伝承する神社					
12	日本建築史・古代（Ⅳ）		奈良・平安期成立の神社、古代の宮殿と都城、寝殿造					
13	日本建築史・古代（Ⅴ）		大仏様の建築、禅宗様の建築、新和様と折衷様					
14	日本建築史・古代（Ⅵ）		中世の神社、北山文化、東山文化、中世の民家					
15	試験							
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教書	カラー版 図説建築の歴史西洋・日本・近代							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築施工 I		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	設計図に基づき、建築物を完成させる各過程を理解し、各種手続き、各種の工事について理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	施工計画（I）		事前調整、施工計画書、工程計画					
2	施工計画（II）		工程表、工程計画の留意点、ネットワーク手法					
3	管理計画（I）		工事関係者、施工管理、工事監理					
4	管理計画（II）		材料監理、各種届出、廃棄物の処理法					
5	仮設工事（I）		共通仮設（仮囲い、現場事務所等）					
6	仮設工事（II）		直接仮設（縄張り、水盛り、やり方等）					
7	仮設工事（III）		直接仮設（丸太足場、単管足場、枠組足場等）					
8	仮設工事（IV）		直接仮設（スロープ、作業床、防護柵、投下設備等）					
9	地盤調査		ボーリング、標準貫入試験、ペーン試験、裁荷試験					
10	土工事（I）		整地、すき取り、根切り、切取り、床付け等					
11	土工事（II）		山留め壁の種類及び工法と各特徴					
12	土工事（III）		排水、止水の種類及び工法と各特徴					
13	土工事（IV）		地業の種類及び工法と各特徴					
14	基礎工事（I）		直接基礎の工法と各特徴					
15	基礎工事（II）		杭基礎の工法と各特徴					
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、施工がわかるイラスト建築生産入門							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築設計製図 I		年次	1 年	前後期	通年	単位	8
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	製図の技法を習得し、各種建築物の製図法を反復練習し、図面表現力と図面の読解力を養成する。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	製図の基本線の練習		製図用具の使い方など製図の基本的事項 線の種類・太さを正しく使い分けて描けるようにするための練習					
2	表示記号		平面表示記号及び材料構造表示記号の説明・描き方 表示記号の作図及び文字の練習					
3	木造図面 配置図の作成		配置計画の手法と配置図の表現方法・描き方 配置図の作成					
4	平面図の作成		平面計画の手法と平面図の表現方法・描き方 平面図の作成					
5	立面図の作成		立面計画の手法と立面図の表現方法・描き方 立面図の作成					
6	断面図の作成		断面計画の手法と立面図の表現方法・描き方 断面図の作成					
7	矩計図の作成		矩計図の表現方法・描き方 矩計図の作成					
8	天井伏図の作成		天井伏図作成の手法と天井伏図の表現方法・描き方 天井伏図の作成					
9	展開図の作成		展開図作成の手法と展開図の表現方法・描き方 展開図の作成					
10	建具表の作成		建具表作成の手法と建具表の表現方法・描き 建具表の作成 今までの図面作成についての講評					
11	木造2階建住宅 配置図・平面図		木造2階建の配置計画及び平面計画の手法と配置図・平面図の表現方法・ 描き方 配置図・平面図の作成					
12	木造2階建住宅 立面図・断面図		木造2階建の立面計画及び断面計画の手法と立面図・断面図の表現方法・ 描き方 立面図・断面図の作成					
13	木造2階建住宅 各伏図		木造2階建の基礎伏図・床伏図・小屋伏図の表現方法・描き方 各伏図の作成					
14	木造2階建住宅 軸組図		木造2階建の軸組図の表現方法・描き方 軸組図の作成					
15	木造2階建住宅 断面詳細図		木造2階建の断面詳細図の表現方法・描き方 断面詳細図の作成					
1回配当時間	8 時間	4 コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、新しい建築の製図							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築測量実習		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士、建築施工管理技士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築現場で必要な測量機器の操作、測量法等について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	測量実習の概要		実習心得 測量学、分類、目的、建築測量について					
2	測量機器取扱い要領		トランシット、レベル、平板測量など測量機器の取扱い実習 実習場の安全使用、注意事項					
3	平板測量 放射法		放射法による土地測量					
4	平板測量 交会法		前方交会法、後方交会法					
5	平板測量 オフセット法		オフセット法について、本線と支距					
6	平板測量 個人指導、実技テスト		平板測量の基本操作を個人指導して実施					
7	面積計算（Ⅰ）		面積計算、不定形の面積計算 プランメーター					
8	レベル測量		レベルの種類、取扱い要領					
9	高低測量（Ⅰ）		堤防の断面の形状を調べるためレベル測量を実施					
10	高低測量（Ⅱ）		前回に続き堤防の断面測量					
11	建築現場用語		ミズ・カネ・スミなど建築現場で使用される用語					
12	レベル検査法		レベルの点検検査法、くい打ち検査法					
13	面積計算（Ⅱ）		面積計算、不定形の面積計算 プランメーター					
14	レベル測量 個人指導、実技テスト		レベルの使用、基本操作を個人指導					
15	試験							
1回配当時間	4時間	2コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、新版 建築実習1							

SYLLABUS(前期)

授業科目	建築法規 I		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築基準法及び関連規則について、法の基本理念を理解し、各規定について具体的に習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	建築法規の概要		建築法規の歴史、役割、法令体系と条文構成					
2	建築物の用語		建築物・工作物の定義等、建築に関する用語					
3	防火に関する用語		防火構造・耐火建築物と準耐火建築物・防火材料等 防火に関する用語					
4	建築手続き		建築、修繕、模様替え、行政機関等 手続きに関する用語					
5	面積		建築面積、床面積、延べ面積の算定方法等、面積の定義					
6	高さ、地盤面、階数		高さの算定基準、塔屋・PH突出物の扱い、平均地盤面、突出・地階部分の階数算定					
7	敷地、採光		前面道路と敷地の関係、用途地域別有効採光面積の算定方法					
8	換気設備 シックハウス		火気使用室における換気設備の設置基準、化学物質の発散に関する安全基準等、安全と衛生基準					
9	地階の居室 天井と床高さ		地下室と床下の衛生基準と防湿構造 必要換気有効面積と平均天井高さの算定方法					
10	界壁の遮音構造		界壁の遮音性能に関する技術的基準、使用規定等					
11	階段と傾斜路		階段及び踊り場の幅、踏面、蹴上げ、手すりの高さ、傾斜路の勾配					
12	構造計算		構造計算の必要な構造種別、規模、計算方法 構造計算の流れと安全確認					
13	木構造（Ⅰ）		柱の大きさ、筋かいの規定、木造の基本構造					
14	木構造（Ⅱ）		構造上必要な軸組み長さ、地震力と風圧力に対する計算方法					
15	試験							
1回配当時間	2 時間	1 コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、図説やさしい建築法規、建築関係法令集 法令編							

SYLLABUS(前期)

授業科目	構造力学 I	年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築基準法及び関連規則について、法の基本理念を理解するとともに各規定について具体的に習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	構造力学に必要な計算	分数、平方根、連立方程式、文字を含んだ式、相似形、面積計算 演習問題					
2	力の基礎（Ⅰ）	力のモーメントとその符号及びモーメントの距離の見極め方 演習問題					
3	力の基礎（Ⅱ）	合力とは何か、一点に作用する力の合力と平行に並ぶ力の合力、分布荷重とは何か 演習問題					
4	力の釣り合い	力の釣り合いとは何か、回転を伴う力の釣り合い 演習問題					
5	反力（Ⅰ）	構造物の支え方、反力とは何か、集中荷重が働く場合の反力 演習問題					
6	反力（Ⅱ）	分布荷重の働く場合とモーメント荷重の働く場合、張り出し梁の反力 演習問題					
7	反力（Ⅲ）	ラーメン、水平方向に力が働く場合及び鉛直方向に力が働く場合の反力 演習問題					
8	部材に生じる力（Ⅰ）	部材に生じる力（曲げモーメント、せん断力、軸方向力） 演習問題					
9	部材に生じる力（Ⅱ）	単純梁に生じる力（集中荷重、分布荷重、モーメント荷重） 片持ち梁に生じる力（集中荷重、分布荷重） 演習問題					
10	部材に生じる力（Ⅲ）	軸方向力図の描き方 演習問題					
11	部材に生じる力（Ⅳ）	せん断力図（集中荷重と分布荷重の場合）の描き方 演習問題					
12	部材に生じる力（Ⅴ）	せん断力図（モーメント荷重の場合）の描き方 演習問題					
13	部材に生じる力（Ⅵ）	曲げモーメント図（集中荷重と分布荷重の場合）の描き方 演習問題					
14	部材に生じる力（Ⅶ）	曲げモーメント図（モーメント荷重の場合）の描き方 演習問題					
15	試験						
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	図説やさしい構造力学 改訂版、基礎から学ぶ建築構造設計 基本式の理解と活用、ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版						

SYLLABUS(前期)

授業科目	福祉住環境		年次	1年	前後期	前期	単位	2
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして内装に関する実務経験を有す。							
教育目標	高齢者や障害者にとって安全で住みやすい住環境や住宅設備、並びに福祉用具について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	少子高齢社会と共生社会への道		少子高齢社会の現状と課題、地域社会、社会全体の取り組み					
2	福祉住環境整備の重要性・必要性		日本の住環境の問題点、福祉住環境コーディネーターの役割					
3	在宅生活の維持とケアサービス（Ⅰ）		介護保険制度、介護保険サービスの種類					
4	在宅生活の維持とケアサービス（Ⅱ）		障害者自立支援法					
5	健康と自立		高齢者の健康に必要な食事・運動、ヘルスプロモーション					
6	障害者が生活の不自由を克服する道		障害者の自立の方策、障害に影響を及ぼす要因、社会参加を可能にする要因					
7	バリアフリーとユニバーサルデザイン		バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方 我が国におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン					
8	生活を支える様々な用具（Ⅰ）		問題点と共用品、福祉用具の基本性能					
9	生活を支える様々な用具（Ⅱ）		福祉用具（用途・構造・機能・留意点・目的）					
10	安全・快適な住まいの整備（Ⅰ）		屋外移動・外出（アプローチ・玄関・廊下・階段の整備）					
11	安全・快適な住まいの整備（Ⅱ）		トイレ・洗面・脱衣室・浴室・調理・起居・寝室の整備					
12	ライフスタイルの多様化と住まい		ライフスタイルの多様化、暮らし方の変化					
13	安心できる住生活支援		高齢者や障害者に対応した住宅、住環境整備					
14	安心して暮らせるまちづくり		人にやさしいまちづくり					
15	試験		基本的事項					
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教科書		福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改定4版、U-CANの福祉住環境コーディネーター 速習レッスン&問題集						